

# 町小だより

令和4年  
4月28日  
No. 665  
御免町小学校

## 愛あり御免町小

校長 相澤 祐助

御免町小学校の校歌の一番に、「愛あり信あり よき師よき友」という歌詞があります。なるほど、と納得がきました。御免町小の子どもたちの瞳に光る愛を感じたからです。愛に溢れ、互いを信じ合う、しっかりと子どもたちがつながっている学校、それが御免町小学校だと実感しました。

入学式の式場準備を黙々とする6年生。まだ見ぬかわいい後輩たちのために、教室の掃除、飾り付けを行いました。保護者の皆さんも来てくださる体育館の窓やステージにおもてなしの花を飾ってくれました。1年生を迎える愛に溢れていました。

朝、登校してくる子どもたちを児童玄関で迎えていると、バケツを持ってグラウンドに向かう子が10人ほどいました。ちらりと見てみると、チューリップの花壇に生えた雑草を抜いているのです。チューリップが元気に、きれいに咲くように毎朝、手入れをしています。「朝活」という学校生活の一コマ。自分たちが育てている花への愛です。

始業式のあった4月6日。学区の道路では、朝早くから地域の皆様方が、進級し成長した子どもたちを温かい眼差しで見守ってくださいました。事故に遭わないように、元気に登校できるようにと、若い命への希望の愛です。毎日、交通量の多い道路や狭くて危険な道路に立ち、子どもたちの安全のため御協力いただいている地域の皆様方には感謝しかありません。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

愛という言葉は、抽象的です。概念的でもあります。よく分からないと思うこともあります。しかし、具体の姿から見ると、たくさんの愛で溢れていることがうかがえます。兄弟姉妹ではないけれど、同じ地域の1年生と手をつないで登校してくれる上級生。ちょっと教室に入りづらい同級生を、児童玄関で励まし、一緒に教室に向かう子たち。出勤前に、わが子の忘れ物を学校に届けてくれるお父さん、お母さん。具合のよくない子を職員室のソファに休ませ、熱を測ったり、体調を聞いたりする教職員。御免町小学校は、たくさんの愛に包まれています。“愛あり御免町小”

校内をまわっていると、1年生が校歌を覚えるため、練習をしていました。1年生をはじめ、全校児童で校歌斉唱ができる日を心待ちにしています。

私は、御免町小の子どもたちが、新発田を愛し、自分自身も愛し、そして未来を愛する子どもたちへと育ていこうと思います。それには、保護者の皆さん、地域の方々の御協力が欠かせません。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。